

## 工藤篤子メールマガジン 124号 2008.5.15

### ● レコーディング ● 若者が仕える教会

ミャンマーのサイクロン、中国の大地震と、相次ぐ大きな自然災害に心痛めています。

日本では、寒暖の差の大きい日々が続いていますが、皆さん、お元気でいらっしゃいますか？

### ● レコーディング

4月28日～5月10日まで続いたレコーディング、皆さんのお祈りに支えられ、最後まで声も健康も守られて、無事終わることができました。

その間、3、4日に一日は休息日を入れたものの、一日5～6時間続いたレコーディングの期間、最後まで声を守られたのは、皆さんのお祈りのお支えがあったからこそと、心から感謝しています。

録音を聞くたびに、自分の歌の欠点、できないことばかりが耳について、何度も録音し直すようなこともありましたが、そのような中でも、心はいつも主に向かっており、一日数時間、神への高鳴る思いをもって賛美を捧げる日々を過ごせた幸いも感じました。

特に、中国語で録音した「丘に立てる荒削りの十字架」では、なかなか願うようには歌えず、何度も入れ直しました。けれども、そのような葛藤を繰り返す中で、イエス様の十字架が、心に深く迫ってきたのです。そして、その十字架にひれ伏す自分の姿さえ見えてくるようになりました。何度も歌い直すことによって、荒削りの十字架に、流された血潮で赤く染まった主のみ姿が心にしっかりと焼きつけられるようになりました。その後も葛藤は続きましたが、この日を境に、マイクの前に十字架を見上げながら歌うようになりました。

CDは、今年の初秋までに、中国・台湾伝道のために、中国語、台湾語の賛美を中心としたものを一枚リリースする予定です。

そして、秋に他の録音曲を追加・編集し、来年に向けて、もう一枚のCDを出す予定です。

どうぞ、主に用いられるCDになりますよう、お祈りください。

### ● 若者が仕える教会

5月11日、堺栄光教会で賛美コンサートをさせていただきました。

この日は、朝から礼拝に出させていただきましたが、若者が多いのに驚きました。

礼拝後、その若者たちが、一生懸命、会場のセッティングをしてくれました。

特に、ひとつひとつの布製の椅子のほこりを、腰をかがめてガムテーパーで一生懸命きれいにしてい



る姿には、感動を覚えました。



立て上げる私たちひとりひとりに与えられた使命です。

堺栄光教会の仕える若者たちの中に、日本の教会の未来を感じました。今、若者たちの救いのためにもっと祈っていかねばならない大切さを覚えています。

あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわいの日が来ないうちに、また「何の喜びもない。」と言う年月が近づく前に。(伝道者の書12:1)

## ★お祈りください

これから以下のコンサートが続きます。

どうぞ、ひとつひとつのコンサートにおいて、霊とまことをもって主を賛美することができますよう、また、健康と声が守られますよう、お祈りお支えください。

5月15日(木) 北本福音キリスト教会 グレースフル・コンサート

5月17日(土) 「愛と希望と平和をあなたに」コンサート(VIP 埼玉)

5月25日(日) インマヌエル聖宣神学院 チャペルコンサート

6月 2日(月) 札幌ザ・ルーテルホール・ジョイント・リサイタル

\*それぞれのコンサートの詳細、お問い合わせ先等は、ホームページのスケジュールをご覧ください。

<http://atsukokudomm.com/html/schedule.html>

主のご愛と恵みが、皆様とともにありますように！

コンサートで、その感動を皆さんにお分かちさせていただいた時、「若い皆さんたちは、ここに座られる方に主の祝福がありますように、と祈りながらきれいにしてくださったに違いありません」と言いましたら、会場の後ろに立っていたその若い皆さんが、うんうんとうなずいていましたので、それを見て、また感動を覚えました。

中国の教会でも、若者たちの仕える姿に感動を覚えました。その思いを牧師先生に伝えましたら、こう答えられました。「教会員になるには3つのステップを踏まなければなりません。最初はお客さん、次に教会の主人になって人を接待する側になります。3番目には、しもべになるのです。しもべになれば、正式な教会員です」。

「互いに仕え合うこと」、それがキリストのみからたである教会を



工藤篤子